

潜在化しているヒヤリ・ハット体験を初めて都民に聞きました！

キッチンでのヒヤリ・ハット体験を調査

「コンロでたばこに火をつけたら前髪が燃えた！」「包丁の刃が欠けてまぶたに当たった！」など1万件を収集

身の回りの商品・サービスによる「ヒヤリ・ハット」体験はどこへも情報提供されることなく、多数埋もれている現状があります。そこで、都では、家の中でも様々な危険が潜むキッチンをテーマに、将来危害・危険につながる可能性がある事例を積極的に掘りおこすためのインターネットアンケート調査を実施しました。

1 キッチンでのヒヤリ・ハットや危害体験の調査結果(4,000人に調査)

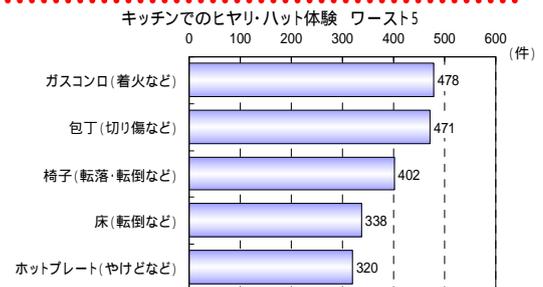
キッチンでのヒヤリ・ハットや危害の体験を10,000件以上収集！

例えばこんな体験が・・・

たばこをくわえながらガスコンロで火をつけようとしたら、前髪に火がぼつとついた。
コンロの火をつけたまま、鍋を交換しようと思って手をコンロの上方に伸ばして袖口を焦がしてしまった。
使っていた洗剤が身体に合わなかったらしく、指がかぶれ皮膚がめくれた。
氷を包丁で砕いていたら、刃が欠けてまぶたに当たった。

【収集した体験の傾向】

- ア)ヒヤリ・ハット体験では、ガスコンロに関係する事例が最も多い。
- イ)包丁や台所用洗剤に関しては、医療機関を受診した事例も多い。
- ウ)床での転倒や椅子からの転落、電気ポットでのやけどでは入院した事例もあった。

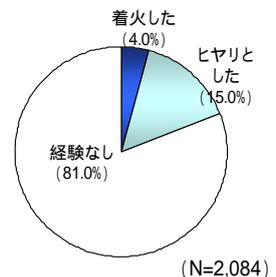


2 コンロ回りでの危険の発生率(2,100人に調査)

- ア)ガスコンロ使用経験者の19%が衣類への着火を経験。
毛髪等への着火は19%、布巾などへの着火は38%が経験。
- イ)IH調理器使用経験者の16%がなべの滑りを経験。
- ウ)コンロ回りでの便利グッズの使用経験者では、
グリル用小石への着火は10%、換気扇フィルター及びアルミ製パネルの着火はそれぞれ6%が経験。

「経験」はヒヤリ・ハットと危害事例を含む。

着ている服への着火の発生率



今後の取組

キッチンでの事故防止のポイントをまとめたヒヤリ・ハットレポート No.1「キッチンでの事故防止ガイド」を作成し、都民への啓発に取り組む。

・発行部数3万部を消費生活相談窓口、中学校や高等学校、消費者団体等へ配布。

「キッチンでの事故防止ガイド」のダウンロードや詳しい情報はこちらをご覧ください。
東京くらしWEB「くらしの安全情報サイト」<http://www.anzen.metro.tokyo.jp/>

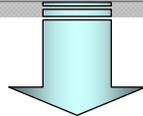
【問い合わせ先】 消費生活部生活安全課 池田・石川・源
内線 29-860 直通 03-5388-3099



「キッチン」でのヒヤリ・ハット体験調査とは...

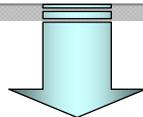
ヒヤリ・ハット体験調査

消費生活センター等へ情報提供されることなく、多数埋もれていると考えられる身の回りの商品・サービスによる「ヒヤリ・ハット」体験を、インターネットアンケートで積極的に掘りおこし、情報発信等を通じて被害の未然防止・拡大防止を図る。



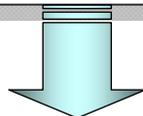
アンケート 1...キッチンでのヒヤリ・ハットや危害の体験を調査

- 【テーマ選定】 家庭の中でも、火気・刃物・様々な家電製品を使う『キッチン』をテーマに設定。
- 【対象】 東京都に居住する20歳以上の男女 4,000人
- 【事例の収集方法】 体験を広く収集するため、キッチンで「ヒヤリ・ハットした」や「危害にあった」体験を自由回答方式により収集。



アンケート 2...コンロ回りでの危険を詳細調査

- 【テーマ選定】 ヒヤリ・ハット体験が最多であり、かつ、火災など大きな危害に繋がる恐れが潜んでいるコンロ回りでのヒヤリ・ハット体験について、発生率や原因を調査。
- 【対象】 東京都に居住する20歳以上の主に家事を行っている男女 2,100人
- 【方法】 選択方式の設問により、コンロ回りの危険の発生率や原因を定量的に調査。



結果の活用

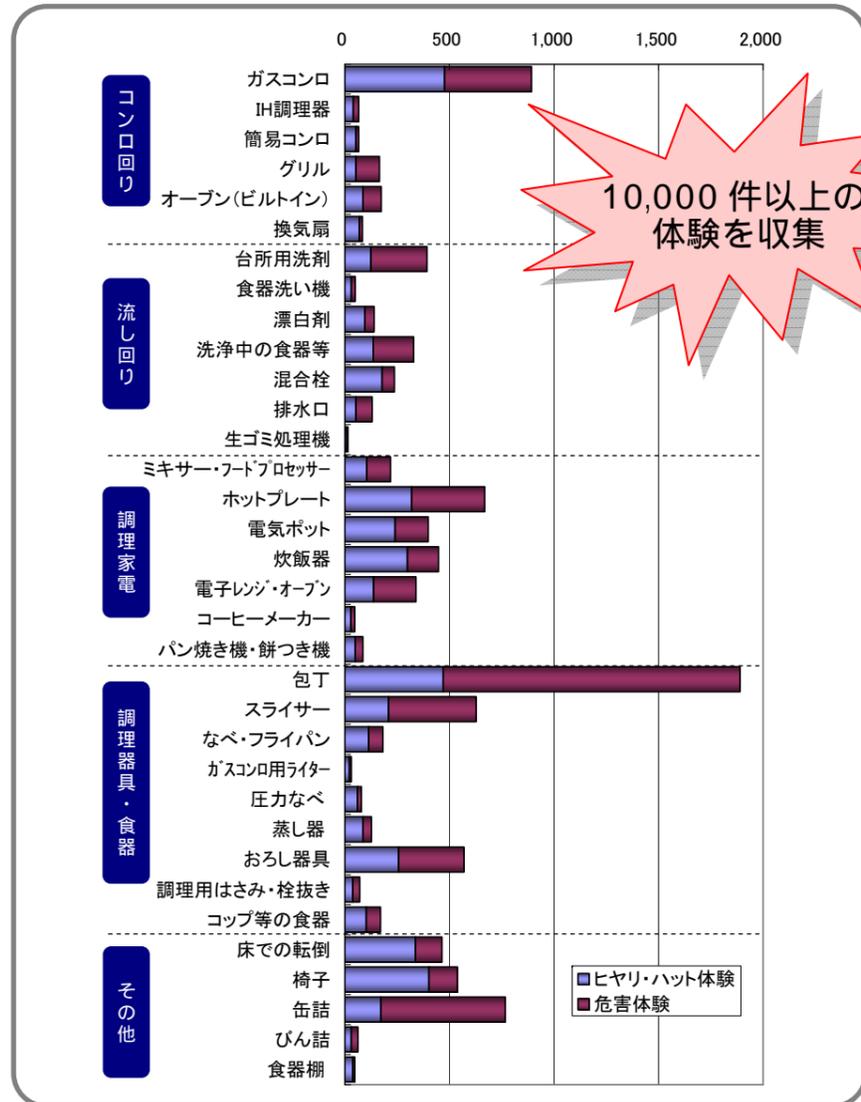
- キッチンでの事故防止のポイントをまとめた「キッチンでの事故防止ガイド」による都民への情報提供。
- 業界団体へ調査結果を情報提供。
- 収集したヒヤリ・ハット体験を蓄積し、安全性に関する調査実施時に活用。

ヒヤリ・ハットとは 実際にケガや着火等には至らなかったが、ヒヤリとしたりハットとした事例

危害とは 商品などが原因で実際にケガや病気をした事例及び引火や着火など火災等の重大な事故につながるおそれのある事例

「キッチン」でのヒヤリ・ハット体験の具体例

4,000人から収集したヒヤリ・ハットや危害体験の件数



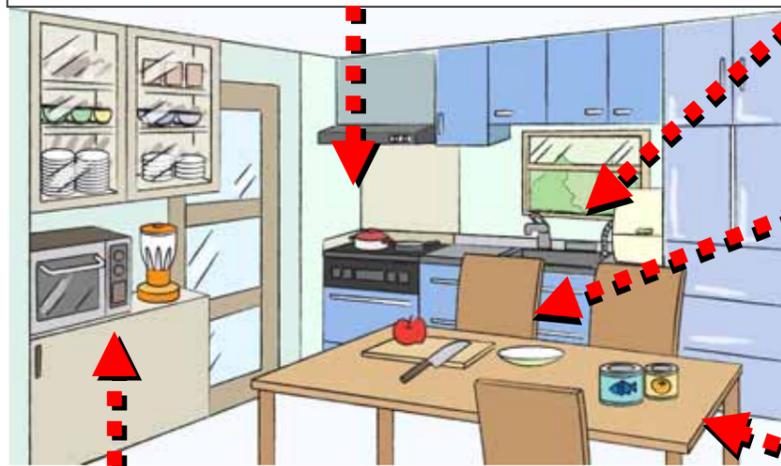
10,000件以上の体験を収集

具体的な体験例は？

キッチンでは、こんなヒヤリ・ハットや危害体験が！

コンロ回りでの体験

- 「ガスコンロ」(893件)
 - 高齢の母はコンロの火をつけたまま、鍋を交換しようと思って手をコンロの上方に伸ばして袖口を焦がしてしまった。
 - たばこをくわえながらガスコンロで火をつけようとしたら、前髪に火がぼつとついた。
 - アサリのパスタを作るのにワインを入れたところ発火して換気扇のフィルターに着火。
- 「IH調理器」(66件)
 - 小さい鍋で湯を沸かしていて、沸騰後に突然横滑りし、床に落ちた。



調理家電に関する体験

- 「ホットプレート」(669件)
 - 長女が0歳の時、こたつに置いたホットプレートにさわってしまい、手をやけどした。治るまで2週間近くかかった。
- 「電気ポット」(399件)
 - 3歳の妹が、保温ポットを倒して、足にやけどをした。痕が残るほどのやけどになった。
- 「ミキサー・フードプロセッサー」(218件)
 - フードプロセッサーのカッターをはずして洗おうとしたとき、刃で指皮膚が剥がれ出血が止まらず、そのまま病院にいき治療。

流し回りでの体験

- 「台所用洗剤」(393件)
 - 使っていた洗剤が身体に合わなかったらしく、指がかぶれ皮膚がめくれた。手湿疹と診断されて完治するまで1年半ぐらいかかった。
- 「洗浄中の食器類」(328件)
 - コップを洗っていてぐるっと回したときに、コップが割れていて、深く切り、中の白い骨が見えたので医者に行った。
- 「生ゴミ処理機」(15件)
 - スプーンが入っているのに気づかずディスポーザーを回してしまい、破損した。

調理器具・食器に関する体験

- 「包丁」(1,890件)
 - 氷を包丁で砕いていたら、刃が欠けてまぶたに当たった。もう少しで目に入るところだった。
- 「スライサー」(628件)
 - スライサーで人差し指の先端を切ってしまった。深かったので病院で縫合してもらった。
- 「圧力なべ」(79件)
 - クリームシチューを作り、まだじゃがいもが硬かったのもう一度圧力鍋の蓋をして沸騰させたら、空気口からシチューが吹き出した。

その他、キッチンでの体験

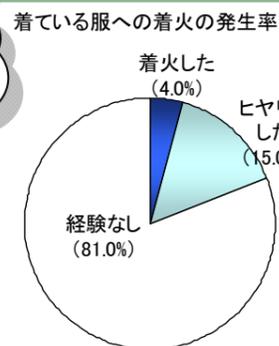
- 「缶詰」(767件)
 - ゴミの分別のため、必ず缶を洗ってから捨てないといけないので毎回洗うが、いつも手を切ったり切りそうになったりする。
- 「床での転倒」(464件)
 - スリッパが滑り、かばおうとした右足の甲の骨、中足骨を3本骨折して全治2ヶ月。
- 「椅子」(539件)
 - 換気扇を掃除しようとして流し台に上るために椅子を使ったところ、バランスを崩し椅子から落ちて、手首を骨折、医者に行き処置をしてもらった。

体験例の傾向

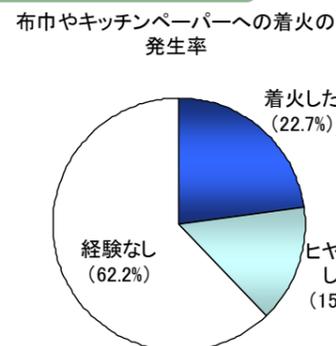
- コンロ回り 「ガスコンロ」では着ている服やコンロ回りのものに着火した体験が最多。「グリル」に脂がたまって大きな炎が出る体験が多い。
- 流し回り 「台所用洗剤」で手がかぶれ、長く医療機関を受診する人がいた。「洗浄中の食器類」では割れた食器で骨が見えるほど深く切った事故が発生。
- 調理家電 「ホットプレート」では目を離した隙に子供が触ってやけどしている。「電気ポット」の転倒で、痕が残るほどのやけどを負った事例もあった。
- 調理器具・食器 「包丁」は食材調理中の事故が最も多い。「スライサー」では縫合するほど深い傷。食材が小さくなったとき事故が発生。
- その他 「缶詰」は開缶時だけでなく、洗浄時や中身を取り出すときにもケガをしている。「床での転倒」は水や油で滑ったり、床に落ちたものを踏んで滑っている。「椅子」を踏み台代わりに使って、転落。受傷者の3割は60歳以上。

コンロ回りでの危険な体験の発生率を調査

どのくらい発生しているの？



(N=2,084)



(N=2,084)

ヒヤリ・ハットや危害体験

着ている服への着火は、**19%** 発生！

コンロ回りのもの(布巾など)への着火は、**38%** 発生！